

# あんどうりすの防災四季だより

## 第43回 放送日：2020.1.24（金）

### パーソナリティー：あんどうりす

### テーマ：水害の後処理



「命を守る」という大切なことに役立つのは、  
アウトドアのスキル。

阪神大震災を被災した「あんどうりす」さんが、  
防災・減災の方法を楽しく導きます。

生物材料工学の専門家に聞く

見えないところも濡れている。

ゆっくり じっくり 徹底的に乾かすこと。



本日は、

長岡技術科学大学 工学部  
生物機能工学専攻  
生物材料工学講座  
准教授の  
木村 悟隆先生（※）に  
電話でお話を伺いたと思います。

木村先生は、各地の被災地に調査に入られ、

特に、  
昨年秋に起こった水害(台風19号)では、  
長野県にも行かれました。

木村先生こんにちは。



こんにちは～。

(※)木村 悟隆 (きむら のりたか)  
長岡技術科学大学 工学部  
生物機能工学専攻 生物材料工学講座 高分子機能工学研究室  
<https://souran.nagaokaut.ac.jp/view?!=ja&u=239>



# ダメ！ 濡れたまま放置

水害の後始末ですが、  
まず大事なものは、床下などの乾燥が重要と  
お聞きしてるのですが、  
それは、どういうことなのでしょう？

はい。  
濡れたまま放置すると、  
まず皆さんも良くご存知のように



カビます。

床下もそうですし、  
床上浸水で濡れた壁の裏側にある、  
柱や断熱材などの部材もそうなのです。



そしてさらに放置すると、  
「木」は腐るわけです。

腐ってしまうと、  
柱も壁も  
役割を果たせなくなってしまいます。

耐震性も無くなります。

その前に、  
床がボコボコになって住めなくなるなど、

そういったことが起こります。



# 乾燥不足は厄介の元

西日本豪雨の事例ですと、  
1年経った昨年の夏前頃に、

「床がボコボコになった。  
どうしたら良いでしょうか？」

という事が、やっぱり出てきました。

その段階まで腐食が進んでも、  
傷んだ部材は取りましょう。  
という事を言いました。

1年も経ってからだと、  
やはり  
家の被害、傷みが拡大しています。

仮に、直すとしても、

当初よりもはるかに費用が掛かりますし、  
作業も困難を極める。  
ということになると思います。



# 建てた時代で違う 乾燥の方法

まず、  
床や壁を剥がしたりして乾燥させる。とい  
う事が重要なのですね。  
どのように乾燥させるのが良いのですか？

濡れて傷んだ部分を、  
除去した後の話をします。



まずそういった、濡れた部材を除去します。

その後は、  
建築された時代によって変わります。



# 床板を剥がせるか

①昔の家屋ですと、

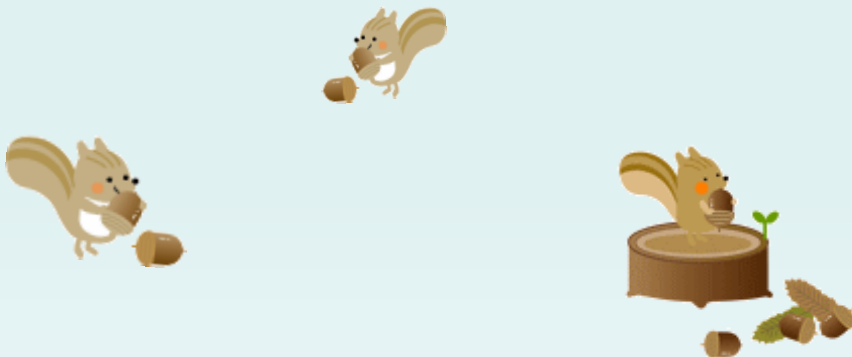


比較的簡単に  
床板を完全に取り去る事ができます。

テレビでも見かけるような、  
床が骨組みだけになります。

そのような状態になるのは、  
昔建てられたお宅です。

その場合には  
扇風機を何台も、  
床下に入れて乾燥させると早いです。





②最近建てられたお宅になると、

床が板張り、フローリングなどは、  
簡単には剥がせません。

台所に、「床下の点検口」があるのを  
ご存知でしょうか？

そういった所から、  
風を吹き込んであげます。

「そんなものがあつたの？」というふうに、  
良く主婦の方はおっしゃいます。

キッチン収納庫、床下収納庫というと、  
分かると思います。





# 風は強制的に送り込む

収納庫の箱をはずしてみると  
床下を覗けるようになっているはずです。

その穴からですと、  
風を強制的に送り込まないと、

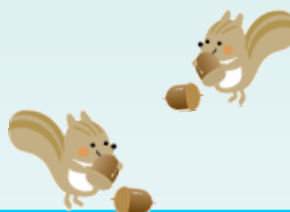
なかなか乾燥しないのです。



扇風機でも良いですし、  
ホームセンターなどで売っている  
大型のファンもおすすめです。

本格的になりますが、  
ダクトファンという物があります。

ファンの先に蛇腹がついていて、  
離れたところまで  
風を送り込むことができます。



# 乾燥は気長に

乾燥するまでにかかる時間は、  
木材だと1か月、コンクリートは2か月くら  
いとお聞きしたのですが、  
長くかかるのですね？

そうですね、結構長くかかりますね。



長野でも、そういう事を良くお分かりの方は、  
「自分の家の修理完了は次のお盆だ」と  
言っているくらいの期間です。

冬の間も、もうじっくり乾燥して春まで待とう。  
というくらいの方もいらっしゃいます。

水害枯らし(※1)は意外とかかります。

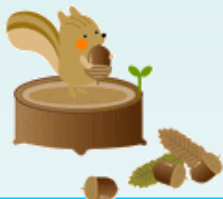
(※1)水害の後の枯らし期間

枯らし(建築業界用語)

新築マンション・一戸建て、リフォーム工事など、

住宅が完成してから引き渡しまでに、住戸内に風を通し、床・建具など  
に塗られたペンキや壁紙・内装材などの接着剤などを

完全に養生・乾燥させる事。枯らしに必要な期間を「枯らし期間」。



# 乾くまで待とう

乾燥が重要なのは、水害の特性という事で、地震とはまた違うところなのですね？

4年前でしたか、同じように、茨城県常総市のものすごく広い範囲が浸かった水害があります。(※2)



9月の水害でしたが、修理のピークはやっぱり翌年の1月とか2月でしたね。

逆に、早くやりすぎた方もいました。

私が11月(平成27年)にうかがった時に、直接ではないのですが、

もう、すぐにリフォームした。  
というお宅の話を聞きました。



(※2)

平成27年9月関東・東北豪雨（国土交通省関東地方整備局）  
[http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr\\_content/content/000687586.pdf](http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000687586.pdf)

1か月後にはすでに  
カビてしまったりなどして、

もう1回修理をやり直す話が  
出てきてしまっていました。

濡れた部材を取り除いた後に  
乾燥期間を置かず、

すぐに  
リフォームに入ってしまったのです。

とにかく、すっかり乾くまで、  
待たなければいけないという事です。



# 水害からの復興の特徴

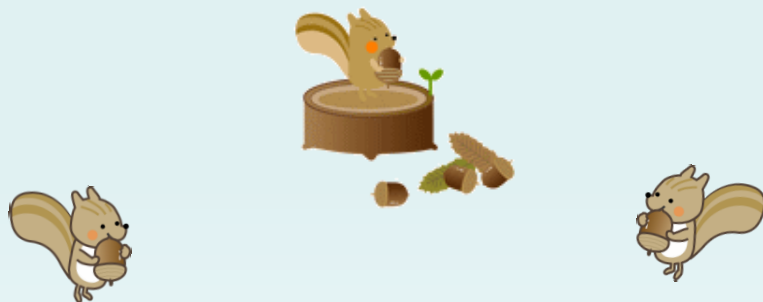
水害の場合、床の修理をしている間は、  
仮設住宅に入るのではなく、  
自宅の2階にいらっしゃる方が多いとお聞きしたのですが？



そうですね。

2階まで浸水するようなケースですと、  
もう流石に住めません。

西日本豪雨の被災地のひとつである真備町は、  
そのような状態でした。



1階部分が1mくらい浸水したようなケースでは、2階が無事です。

水回りがある程度大丈夫であれば住むことができます。

2階に住むというケースが多いのは、むしろ水害の特徴のひとつにもなりますね。



良く分かりました。  
本日はどうもありがとうございました。

次回も引き続き木村先生にお話をお聞きしたいと思います。



(TEXT/はしも)